



こども家庭センターのスタッフが子育てについての情報を発信していきます！

今月のトピック

体罰などによらない子育てを広げよう



しつけと体罰の関係って？

叩かない、どならぬ。

しつけは子どもが自分の力で人生を切り開いていくことができるようサポートすることです。

子育てにおいて、しつけなのか体罰なのか迷うことがあるかもしれません。しつけは子どもの人格や才能などを伸ばし、社会で自律した生活を送れるよう、子どもをサポートして社会性を育む行為です。一方、体罰や暴言はこどもの身体や心を傷つける行為です。

自由にのびのびと育てほしいけど、立派な大人にもなってほしい。だからこそつい叱りすぎてしまうことがあるかもしれません。これってしつけになってる？それとも、もしかして体罰…？

一緒に学んでいきましょう。



体罰は法律で禁止されています

これらはすべて「体罰」です

- 何度も言葉で注意したが言うことを聞かないので、頬を叩いた
- いたずらをしたので、長時間正座をさせた
- 他人のものを取ったので、お尻を叩いた
- 宿題をしなかったので、食事を与えなかった
- 友だちを殴ってけがをさせたので、同じように殴った



わかっているけど、わからなくなったらいつでもご相談ください



氷川町こども家庭センター ☎0965-62-3456
(月～金曜 8時30分～17時15分)

今回は「なぜ体罰をしてはいけないのか」についてです



町民文芸

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛（毎月5日必着）

通潤橋水が飛びちる秋深し
竜北西部小 名島 大雅（上鹿島）

4年生が授業で
俳句を作りました

亜紀さんとすれ違ったやも妙見祭
西上宮 山下 環
満月やささぎるものなし二階窓
西上宮 廣松 真実子
拓植の木が毎日水貫い熱中症脱出
西上宮 廣瀬 小亀
ゆつくりと夕日沈みて後の月
西野津 古崎 栄子
スエノ
黄金波つづく郷にも米騒動
西野津 古崎 スエノ

俳句

不知火の海黒々と冬待てり
北野津 井田 道寛
我が庭に迷ふ込みたる稲雀
西野津 古崎 スエノ
今朝も八時過ぎて起床平時の体調に
感謝・感謝で今日が始まる
西上宮 廣瀬 小亀
真正面朝日を拝む二階窓
セレニティの生活へ感謝
西上宮 廣松 真実子

短歌

青秋刀魚けぶり目にししみじみと
圍炉裏の天井思ひ浮かべり
北野津 井田 道寛
種時けば一致団結土もたげ
芽の出る朝の風もさわやか
西野津 古崎 スエノ
我が庭に迷ふ込みたる稲雀
うろ飛び回り澄み空に消ゆ
西野津 古崎 スエノ
今朝も八時過ぎて起床平時の体調に
感謝・感謝で今日が始まる
西上宮 廣瀬 小亀
真正面朝日を拝む二階窓
セレニティの生活へ感謝
西上宮 廣松 真実子

『金閣寺燃ゆる』
三島由紀夫「金閣寺」から その1
法道寺 本田 花風
この作品は超長編である。小説の長編は原稿用紙300枚以上と言われているが、この「金閣寺」は凡そ360枚におよぶ、これは長編である。広報文芸掲載が始まってラストまでには数年かかるだろうから果たして生きながらえるものかと懸念もする。終わりの言葉など添えてはいるものの果たして……。
本文に入ります。三島由紀夫の文章は、美しく整った文章が特徴で、日常的には使わない言葉や詩的な表現を織り交ぜることで、独特な世界観を表現している。難解な作品もあるが肩の力を抜いて読むことで三島の持つ魅力を感じられます。
三島、没後50年の2020年多くの文学者が三島を振りかえって論議で追った。その中の傑作が「金閣を焼かなければならぬ」『林養賢と三島由紀夫』内海健氏が20年12月大佛次郎賞を受賞した作品である。その新聞記事が私を誘惑した。触れてはならない、いや触れること事態が間違いであろうその「金閣寺」を手掛けることになったが、難解な精神科医の解説と三島に苦勞することになるだろう。
文学者でありながら、肉体を鍛えることにあれほど執着したのはなぜか。
内海の説によれば、現実・他者と自分自身との「隔離」、
「実は自分は存在していないのではないか」という生きていく実感の薄さだった。他人からの注目や素朴な人間関係に、感覚的な快感や喜びを感じられても、他者の複雑な感情や心理、そして自分自身の肉体をありと実感できない。

「誰か」のことじゃない
昭和23年12月10日、国際連合第3回総会において、全ての国と国が達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択されました。これを記念し、12月10日は「人権デー」と定められています。日本では12月4日から10日までの1週間を「人権週間」とし、各関係機関や団体が協力し、全国で人権啓発活動が特に強化され実施されています。社会には、さまざまな人権課題が依然として存在しています。これらは決して自分以外の「誰かのこと」「自分には関係のないこと」ではありません。法務

省の人権擁護機関では、誰もが人権問題を自分や身近な人の問題として捉え、互いに人権を尊重し合い、他の人の人権にも配慮した行動をとることができるよう、啓発活動重点目標である「『誰か』のことじゃない」の下、取り組みが進められています。
氷川町の全ての人が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町になるよう、お互いに思いやりのある言動を心がけていきましょう。



八火図書館だより

☎0965-62-3489

新着図書紹介

一般書 首木の民／菅田 哲也
籠の中のふたり／薬丸 岳
赤パンラプソディ／桐衣 朝子
いわゆる「サザン」について／小貫 信昭
児童書 うつくしいってなに？／最果 タヒ
トーストちゃん／サラ・ファン
ビビさんとゾウ／レザ・ダルバンド
命をつないだ路面電車／テア・ランノ

12月生まれの作家

浅田 次郎
(昭和26年12月13日～)

今年1年、皆さんはどんな本との出会いがありましたか？12月には、今年読んだ本を思い返したり、1年の締めくくりの読書を楽しんだりしてみませんか？そして、来年も皆さんに素晴らしい本との出会いがあることを願っています。

おすすめ図書



赤と青のガウン
彬子女王

オックスフォード大学の厳しい博士課程を成し遂げた者しか袖を通すことの許されない赤と青のガウン。女性皇族として初めて海外で博士号を取得された、彬子女王殿下による涙あり笑いありの英国留学記。

東京都生まれの小説家。ペンネームの浅田次郎は、たまたま机の上に置いてあった小説のボツ原稿の主人公の名前から付けたもの。映画化やテレビドラマ化された作品も多く、現代小説では「平成の泣かせ屋」の異名を持つ。人情味あふれる作風に特徴がある。

年末年始の休館：12月29日（日）～1月3日（金） 年明けは1月4日（土）から通常通り開館します